



Grass Valley

EDIUS[®] X

EDIT ANYTHING. FAST.

リリースノート

Software Version 10.30.8291 (2021年12月版)

www.grassvalley.com

重要なお知らせ

サポートする OS について

Windows 7 はサポートされません。EDIUS X は Windows 10 若しくは Windows 11 上でのみご利用いただけます。

Windows Defender SmartScreen がインストーラの起動を停止する場合

Windows Defender SmartScreen がインストーラの起動を停止する場合は下記の手順を実行してください。

- 1) インストーラを右クリックし [プロパティ] を選択します。
- 2) [デジタル署名] タブを開き”GRASS VALLEY K.K.”のデジタル署名があることを確認します。
- 3) [全般] タブを開き [許可する] をチェックします。
- 4) [適用] をクリックし、続けて [OK] をクリックします。
- 5) もう一度インストーラを起動します。

Floating License Server について

Floating License Server をお使いの場合、そのバージョンは EDIUS X と同じ(または上位)である必要があります。

サブスクリプションライセンスを使用する上での注意事項

サブスクリプションライセンスには以下の制約があります。

- EDIUS X 向けボーナスコンテンツは OFX Bridge も含めご利用いただけません。
※OFX Bridge をご利用いただけないため OpenFX プラグインは使用できません。
- Disc Burner はご利用いただけません。
- H.264/AVC Blu-ray 及び Blu-ray 3D エクスポートは利用いただけません。
- Workgroup ライセンスの場合でもオンラインでのライセンスと eID の検証のために定期的にインターネット接続が必要です。
- 一つのライセンスを同時に二台のコンピューターにインストールすることはできません。
※一部の種類の永続ライセンスは特定の条件下で同一ユーザーが使用する場合に限りライセンス当たり二台までのコンピューターにインストールすることが許諾されています。

上記の制約が問題である場合は永続ライセンスの購入をご検討ください。

オフライン環境での使用について

10.30 から EDIUS X Pro 等定期的にインターネット接続を必要とするライセンスでの最大オフライン使用期間が 60 日から 30 日に短縮されました。

以前のバージョンからのアップデートについて

10.20 若しくはそれ以前のバージョンからバージョンアップした場合は初回起動時に eID の入力画面が表示されます。

- Workgroup ライセンスをお持ちの場合のみ eID 検証をスキップできます。
- Workgroup ライセンスをお持ちで予め eID 検証をスキップしていた場合、eID の入力画面は表示されません。
- eID 検証にはインターネット接続が必要です。

10.21 若しくはそれ以前のバージョンからバージョンアップした場合、GV Job Monitor の以下の設定が初期状態にリセットされます。

- ウィンドウのカラー
- ジョブの表示設定

EDIUS X の動作環境

本バージョンの動作環境は以下の通りです。

CPU	AVX2 をサポートする第 4 世代 Intel CPU 以降 または 同等の AMD CPU
メモリー	8GB 以上 (4K / 8K 編集には 16GB 以上)
ハードディスク	EDIUS のインストールに 6GB 以上、 映像用に SSD または SATA / 7,200rpm 以上のドライブが必要
グラフィックス	1GB 以上、4K / 8K 編集には 2GB 以上のビデオメモリーが必要。 1024x768 32-bit 以上に対応 Direct3D 9.0c 以降および PixelShader3.0 以降に対応
サウンド	WDM に準拠したサウンドデバイスが必要
光学ドライブ	Blu-ray や DVD を作成するには、対応したドライブが必要
インターネット環境	インストール、アップデート、ライセンス認証、および、ユーザー登録、サポートに必要 ※EDIUS Pro 及びサブスクリプションライセンスの場合はライセンス検証のため定期的なインターネットへの接続が必要
OS	Windows 10 64-bit version 1903 以降 Windows 11 64-bit

※動作環境は予告なく変更される場合があります。

更新履歴

本バージョンにて以下の不具合を修正・改善しました。

EDIUS

- オーディオ波形が途中までしか表示されないことがある。
- VAトラック上のビデオのみのクリップを Bin 上のクリップで置き換えると、その Bin クリップのオーディオが VAトラック上に意図せず追加される。
- マルチカムモードでタイムラインクリップを一度ナッジするとそのクリップが選択解除される。

- アルファマツト変換が失敗する。
- "間引きフレーム数"の選択を変更するとオーディオモニタリングモードが"オフ"になる。
- AVCHD Writer エクスポーターがファイルのエクスポートに失敗する。
- "ファイルへ出力"ダイアログで入力したコメントが GV Job Monitor に表示されない。
- コピー元クリップより短いクリップに属性の不透明度、ボリュームまたはパンを貼り付けると、アウト点での値に初期値が設定される。
- 静止画で構成されたシーケンスクリップをファイル変換すると、結果クリップの開始タイムコードが "00:00:00:00"ではなくプロジェクト設定の TC プリセットの値になる。
- ネストされたシーケンスが Dummy Audio Filter を含んでいる場合波形キャッシュ作成ジョブが登録と失敗を繰り返す。
- EDIUS X が Panasonic Semi-Pro で撮影した 119.8p を超える高フレームレートクリップのメタデータを認識しない。
- ネストされたシーケンスの波形が別のシーケンスから生成されることがある。
- タイムライントラックがロックされ且つミュートされているとエクスポートできない。
- クリップメニュー内の"置き換え"の"クリップ"と"クリップとフィルター"の振る舞いが以前のバージョンと異なっている。
- XDCAM エクスポーターが手動入力したクリップ名を他の名前に置き換える。

Mync

- Mync が Panasonic Semi-Pro で撮影した 119.8p を超える高フレームレートクリップのメタデータを認識しない。

既知の障害

本バージョンの既知の障害は以下の通りです。

EDIUS

- 50p/60p クリップの場合、ソースタイムコードのフレームの値として常に偶数が表示される。
- EDIUS.exe をマルウェアだと判定するセキュリティソフトがある。
- Dolby Digital Professional / Plus でエンコードしたものを EDIUS で再生すると、音量が変わる。
- スタンドアロンの GV Job Monitor が起動時に"EdiusHubPackage.msi"を要求する。
一時回避策: EDIUS に統合された GV Job Monitor を使用する。
- Windows の設定の"アプリと機能"に EDIUS X が二項目現れる。
- CPU が第 11 世代インテルプロセッサで NVIDIA 製 GPU がインストールされている場合、ハードウェアデコードを使用して H.264 / H.265 クリップをデコードすると EDIUS が不安定化する。
一時回避策: ハードウェアデコードまたは NVIDIA GPU の使用を中止する。
- MPEG2 Elementary Stream エクスポーターが使用できない。
- インストールしたオプションライセンスが OS を再起動するまで正しく機能しない。
一時回避策: オプションライセンスをインストール後、OS を再起動する。
- 一部のサードパーティ製プラグイン及びボーナスコンテンツは EDIUS がインストールされていると正

- 常にアンインストールやアップデートができない。
- 一時回避策: プラグインの削除や更新の前に一時的に EDIUS をアンインストールする。
- CPU が第 12 世代インテルプロセッサの場合、ハードウェアデコードを使用して H.264/H.265 クリップをデコードすると EDIUS がフリーズする。
一時回避策: ハードウェアデコードの使用を中止する。
 - EDIUS が第 12 世代インテルプロセッサを効率的に使用しない。
一時回避策: Windows の電源モードを“最適なパフォーマンス”(Windows 11) 若しくは“最も高いパフォーマンス”(Windows 10) に変更する。
※手順については Windows のヘルプを参照。
 - コンピューター名を変更すると EDIUS が起動しなくなる。
一時回避策: コンピューター名を元に戻す。

Mync

- CPU が第 11 世代インテルプロセッサで NVIDIA 製 GPU がインストールされている場合、ハードウェアデコードを使用して H.264/H.265 クリップをデコードすると Mync が不安定化する。
一時回避策: ハードウェアデコードまたは NVIDIA GPU の使用を中止する。
- インストールしたオプションライセンスが OS を再起動するまで正しく機能しない。
一時回避策: オプションライセンスをインストール後、OS を再起動する。
- CPU が第 12 世代インテルプロセッサの場合、ハードウェアデコードを使用して H.264/H.265 クリップをデコードすると Mync がフリーズする。
一時回避策: ハードウェアデコードの使用を中止する。
- コンピューター名を変更すると Mync が起動後強制終了する。
一時回避策: コンピューター名を変更した場合は元の名前に戻す。
- Mync が第 12 世代インテルプロセッサを効率的に使用しない。
一時回避策: Windows の電源モードを“最適なパフォーマンス”(Windows 11) 若しくは“最も高いパフォーマンス”(Windows 10) に変更する。
※手順については Windows のヘルプを参照。
- コンピューター名を変更すると Mync が起動後に強制終了する。
一時回避策: コンピューター名を元に戻す。

制限事項

QuickTime for Windows の非サポートによる対応フォーマットの制限

EDIUS X 及び Mync では QuickTime for Windows のサポート (QuickTime Essentials のインストールによる対象ファイルの取り扱い) 終了に伴い、下記フォーマットのファイルは扱えません。

- 静止画: Flash Pix, Mac Pict, QuickTime Image
- 動画 (インポート・エクスポート): M4V および他のコーデックの MOV ファイル
※MPEG-2, H.264/AVC, ProRes 等一般的なビデオコーデックの MOV ファイルはインポート、エクスポート共に可能です。
- 動画 (エクスポート): 3GP (MOV), 3G2 (MOV)
- 音声: MOV (Linear PCM, AAC を除く), QuickTime Audio

重要

上記ファイルが含まれているプロジェクトを EDIUS X で読み込んだ場合、それらはオフラインになります。